



視野を広げて“企業研究”を

就 職 部

積極性と粘り強さ

短期決戦は進路見失う

ていたが、現時点では、昨年くらべて求人状況が悪いわけではない。求人提示を、厳めさし。大企業でもまだ採用活動を行なっているし、中堅、中小企業の大分は、まだ採用活動を続けているといった状況である。

[illegible]

「秋は物の影も
惘然（はつきり）
と萎わ立つ。茄子
紺の山容をのぞ
み、夜は星空を学
ぶ季節が来た」……
夕暮れがむや
みに早く来る。坂

全体の求人企業数からみて決して多いとはいえない。

工学部の諸君が直接専門の技術が生かせる職に就くことが望ましいことはいうまでもないが、近年多様化したところある職の中には、技術系学生の素養を求める傾向が高まっており、この際工学部の諸君は視野を拡げて企業研究をすべきではなからうか。

◇ ◇ ◇

一般的にいって、学生諸君の企業研究は視野がせまい。例えば、自分は金融機関以外には向かないと思ひ込んで、金融関係についてばかり研究しているのであるが、今年のような状況下では、なにかとおりにビシッときまることが容易なことではなく、ついに

「今からでも、まだ就職先はあるでしょうか」、「解禁早々から会社訪問もし、受験もしているが、いまだどこからも合格通知がもらえない、どこでもよいから就職課で世話をしてほしい」といった相談をもちかけられる。

うまくいかない要素は人によって様々であるが、まず多いのは「自信に欠ける点」。そして「学業成績にこだわっている」、口べたであったり、といった人に多い。そのほか話し合っても愛身型になり、次第に後退していくような感じをあげる、あるいは「たくましさがないこと」などもあげられる。現代のような複雑な社会にあつては、ものの方考え方がしっかりしていないければなら

学費改訂行なわず

大学院・学部第一部・第二部の学生の皆さんへ

昭和三十二年度大学院・学部第一部・第二部新入生に対する学費（入学金、授業料、維持拡充資金および実験実習料）については、改訂を行なわない。

学校法人
関西大学

昭和52年度
入学願書発売

全学部（第一部・第二部）
◇合格発表
工学部・法学部・経済学部

來年度の入学願書・五〇〇円（共七〇〇円）を発売した。入試要項の概要は次のとおりである。

◇出願期間・方法
金学部（第一部・第二部）
一月八日（土）～一月二十日（木）
郵送出願に限る。
（締切日消印有効）

◇試験科目
二月十三日（日） 十三時
社会学部 文学部 商学部
二月十四日（月） 十三時
◇五十一年度との変更点
五十一年度 学試験より
経済学部（第一部）の数
必須科目から選択科目に
され、試験科目は他の文
学部と同様、三教科四科
なる。

◇学費、諸費の納入手続

合ひ、夏に歸つた二人は落葉
の中で婚約者のようにさへ見え
る。次々と就職が決まりあと四
力月で卒業することになった四
年次生諸氏は長かった学生生活
を思い返しているかのようだ。
そして秋の最後の仕上げは、総
選挙かもしれない。春夏の論戦
は、晩秋らしい決算を迎えるの
だっつか、あるいは秋を素通り

（引用の詩は金子光晴全集第五卷による）

